

最近、なぜか各地でゲリラ豪雨が多く、大雨・洪水・雷といった警報が頻発しています。もうすぐ運動会シーズン、爽やかな秋晴れの日になれば良いですね。現在会員登録数 865 人さま。ご愛読いただきありがとうございます。次号は 10 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 25

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

●「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。11月11日(日)の午後で、参加費は、お一人500円(大人・子ども同額)です。お申し込み、詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

●フォーラム「児童文学者 中川正文の仕事を顧みる」についてお断り

9月29日(土)大阪府立中央図書館で開催予定ですが、募集定員に達しましたので申し込みは締め切らせていただいています。当日、キャンセルがありました場合のみ先着順で入場いただきます。あしからずご了承ください。

●「第29回ニッサン童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日(水)です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『おやすみなさい トムさん』 ミシェル・マゴリアン/作 中村妙子/訳
評論社 1991年8月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：第二次世界大戦中のイギリス。ロンドンの空襲が激しくなってきたため、9歳のウィリーは小さな村に一人で暮らす老人トムさんの家に疎開することになる。ウィリーは母親の虐待によって体中に傷があり、おびえていたが、トムさんや疎開仲間でユダヤ人のザック、村の人たちと交わることで、絵の才能に目覚め、微笑みを見せるようになる。ところが、母親から病気との連絡があり、帰宅。心配したトムさんがロンドンへ行って、瀕死のウィリーを救出する。

O：このコーナーも2年が過ぎました。これまで二人で毎月新しい作品を取り上げてきましたが、時には一冊がなかなか選べないこともありました。

Y：議論がしたいと思う本が見つからない時は、作品が最初に出版されてから30年ぐらいたって今では話題になっていないけれど、再度読んで話題にしてみたらと思いつきました。

O：今後は、そんな時には、不定期に30年ぐら以前の作品も取り上げていたらおもしろいかな。今回は、試みに『おやすみなさい トムさん』でやりましょうか。中村妙子さんの訳だから読んでみた作品です。

Y：ドラマチックで、子どもの成長が描かれていて久しぶりに児童文学らしい児童文学を読んだような気がしました。

O：シェイクスピアやディッケンズや、詩などがふんだんに出てきますし、トムさんはもと教会のオルガン奏者だったという点など、小村の余裕のある人たちの暮らしと人間としてのやさしさが描かれていて「きれいすぎな」感がありました。

Y：ウィリーの母親は息子をベルトで殴り続け、キリスト教をたてにウィリーの言動を否定し、言葉でも肉体的にも虐待します。そして、血のつながりのないトムさんや村の人たちがウィリーに愛情を示します。このような血縁によらない家族観は現代につながるテーマだと思いました。また、村との付き合い一切絶っていたトムさんが村の人たちに心を開くようになるという大人の成長も描かれていました。

O：ただ、戦争の描写という点では、ザックがロンドンの空襲で死ぬことが事実として書かれているぐらいで同じ疎開を扱った『帰ってきたキャリー』（ニーナ・ボーデン/作 松本享子/訳 評論社 1977年）に比べて物足りなさを感じました。

夢中になって再読してしまいましたが、読み終わってみると、トムさんをはじめとする村人のボランティアぶりやウィリーのひたすら純真である描き方など30年前だからこそかけたのだと我にかえりました。

Y：古さと現代のつながりの両方を感じた作品でしたね。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 25

その5 絵本の選び方(10)絵本を評価する：ジャンル k. 小学校高学年～中学生向きの絵本

最近、ボランティアグループに対して、小学校高学年から中学校へのおはなし会の依頼が増えています。この年齢での読書離れが進む中で、少しでも物語の楽しさに触れ、読書に誘いたいという先生方の強い思いを感じます。

高学年～中学生の子どもたちを対象とした絵本を選ぶ観点として重要なことは、一般的な絵本の選書基準に加えて、思春期の子どもたちの自尊心を傷つけないような本を選ぶことです。そのためには、主人公の年齢が参加者の年齢以上であることが望ましいと思われまます。また、「生きること」「アイデンティティ」「将来の夢」「友だち」「家族」など、この時期の子どもに関心が深いテーマが描かれている作品を選ぶことが重要です。

これらの絵本としては、例えば、トランペッターの著者が「ぼく」の幼い頃の音の記憶を辿る『ぼくがうまれた音』（近藤等則/文 智内兄助/絵 福音館書店 2007年）や息子たちが植木を刈りながら自分の将来の仕事を見つける『おとうさんの庭』（ポール・フライシュマン/文 バグラム・イバトゥリン/絵 藤本朝巳/訳 岩波書店 2006年）、15世紀のイタリアで大聖堂のドームを作った建築家の伝記的絵本『変わり者ピッポ』（トレイシー・E. ファーン/文 ポー・エストラダ/絵 片岡しのぶ/訳 光村教育図書 2010年）などが挙げられます。

加えて、空想的な絵本やことば遊び、詩の絵本、昔話絵本のように、多様な解釈が可能のため、幅広い年齢で楽しめる絵本もあります。その中には、ある火曜日の夜に町をカエルの大群が浮遊するという事件を描いた『かようびのよる』（デヴィッド・ウィーズナー/作・絵 当麻ゆか/訳 徳間書店 2000年）や「ココロとは何？」という問いに詩人と現代美術家が答えた『ココロのヒカリ』（谷川俊太郎/文 元永定正/絵 文研出版 2010年）、ウクライナの老いぼれ犬が主人公の昔話『セルコ』（内田莉沙子/文 ワレンチン・ゴルディチューク/絵 福音館書店 2001年）などがあります。また、『いのしし』（前川貴行/写真・文 アリス館 2007年）などの写真絵本も、写真の持つ迫力が思春期の子どもにも受け入れられる要因となります。

高学年～中学生の中には「絵本は幼稚なもの」という固定観念を持っている子どももいます。彼らの絵本の概念を、視覚的にも言葉としても突き崩すことのできるような作品を選びたいものです。

*次号では「その5 絵本の選び方(11)絵本と読者 赤ちゃん～中学生まで」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思いません。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇5回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。

●演劇情報総合データベース デジタル・アーカイブ・コレクション
(早稲田大学演劇博物館) <http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/>

早稲田大学演劇博物館は、同大学教授を務めた坪内逍遙にゆかりのある施設です。逍遙といえば、『小説神髓』『当世書生気質』などで知られる明治の評論家・小説家ですが、戯曲にも精通し、演劇の近代化に大きな役割を果たしました。逍遙の古稀と「シェークスピア全集」翻訳の完成を記念して、1928年に設立されたのが演劇博物館です。

サイトによると、設立以来「日本国内はもとより、世界各地の演劇・映像の貴重な資料」を収集しており、その種類と数は「錦絵 46,000 枚、舞台写真 200,000 枚、図書 150,000 冊、その他衣装・人形などの演劇資料 52,000 点」に及びます。全部で数十万点の膨大なコレクションで、演劇では国内最大級。その資料をデジタルアーカイブ化したのが本サイトです。

ところで、逍遙は児童演劇に深く関わっており、『家庭用児童劇』（第 1, 2 集）『児童教育と演劇』『学校用小脚本』（1922～1923 年）など、多数の著作があります。ですので、コレクションにも児童文化関係がありそうです。

試みに、〈児童劇〉で検索すると、雑誌データで 178 件、演劇上演記録で 112 件がヒット。この中には、お伽芝居・お伽歌劇などの分野で活躍した巖谷小波や久留島武彦らの当時の上演目録などが画像で掲載されており、大変貴重な資料といえます。著作権関係でまだすべての画像が見られないのは残念ですが、演劇のみに留まらず、児童文学・文化研究にも大変参考になるサイトといえます。

その他、占領期にGHQにより検閲され、アメリカへ持ち帰られた演劇台本（ミシガン大学より移管）など、興味深い資料も。ぜひご覧ください。（J）
※次号は、一次画像データベース篇〈その6〉の予定です。

《4》 行って来ました！

日本国内の美術館を巡回中の「2012 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」に行ってきました。毎年この時期は、日本庭園が美しい西宮市大谷記念美術館で開催されていて、訪れるのが楽しみな展覧会です。発表、未発表にかかわらず5点1組のイラストを応募する絵本原画コンクールの入賞作品展で、今年は60カ国2,685人の応募者から選ばれた72人の作品が展示されました。

美術館のエントランスには、入賞作品のひとつ「赤ずきんちゃん」の壁一面の大きいパネルがありました。赤ずきんちゃんと狼が出会う場面が赤と黒の2色で描かれていて、森の中に入り込んだ気分を味わいながら会場へと進みます。

展示されている絵には、1枚ずつに短いタイトルがついていて、5枚の絵からどんなお話か想像することができます。思わず笑ってしまうような作品もあれば、シュールなものや幻想的な作品などさまざまです。技法もいろいろ

で、お皿に残ったスープで描いたものや、刺繍で描かれたものなどもありました。この作品は出版されるかな、とお気に入りを見つけるのが楽しいです。すでに出版されている今井彩乃さんの『イソップ物語』の原画もありました。

特別展示は、台湾の作家ページ・チューの絵本『鉛の兵隊』の原画で、緻密に描かれた絵はとても見ごたえがありました。アンデルセンの「鉛の兵隊」と結末がちがう物語になっていて、日本語版が出るなら読んでみたいと思いました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 自然と本のコラボレーション

「森とともにだちになろう！ 森の絵本を作ろう！」

貝塚市にある自然いっぱい少年自然の家で、森の散策・自然の素材探し、絵本読み聞かせ、自分だけの絵本づくりを楽しみます。

月 日：平成24年10月6日（土）～7日（日）1泊2日

対 象：幼稚園年長～小学生を含む家族、小学生以上は子どもだけの参加可

定 員：10家族または子ども30人まで

参加費：有料 申込み：必要（申込先着順）

主 催：大阪府立少年自然の家

協 力：大阪府立中央図書館 / 財団法人 大阪国際児童文学館

● 講演会「絵本に導かれて30年 絵本作家との出会い」

講 師：落合直也（BL出版 社長）

日 時：平成24年9月29日（土）午後1時～3時

場 所：和泉市立人権文化センター（ゆう・ゆうプラザ）4階第1研修室

定 員：30人（申込先着順）

参加費：無料 申込み：必要（保育あり）

主 催：和泉市立人権文化センター図書室（にじのとしょかん）

● 世界の子どもの本展 IBBYがすすめる世界の児童書219冊

日 時：開催中～9月23日（日）10:00～18:00

場 所：吹田市立中央図書館 1階集会室（大阪府吹田市出口町）

参加費：無料

* 記念講演会「ひびきあう心とことばー子どもの本は世界への応答ー」

講 師：早川敦子（津田塾大学教授）

日 時：平成24年9月22日（土祝）14:00～16:00

場 所：吹田市立中央図書館 3階集会室

参加費：無料 申込み：必要

主 催：社団法人 日本国際児童図書評議会(JBBY)

共 催：吹田子どもの本連絡会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

当財団特製のトートバッグ（横 31.5×縦 25×まち 9cm）を3名の方にプレゼントします。実物写真はこちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/totebag.pdf

ご希望の方は、メールで 件名「メルマガNO.25プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は10月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

某スーパーでは、「敬老の日」を「G. Gデー」（「じいじ」じゃなく「GRAND GENERATION'S」らしい。）と改め、55歳以上を対象にしているそうだ。一般的には、「老人年齢」の定義も昔と比べればずいぶん「高齢化」したように思うが、逆を行くのが商売の世界か……。 (A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
